

履歴書

萩野谷俊平 博士 (心理学)
明治学院大学心理学部
東京都港区白金台 1-2-37, 108-8636

学位

- 博士 (心理学), 法政大学 (2015)
- 修士 (心理学), 法政大学 (2009)
- 学士 (心理学), 学習院大学 (2007)

継続教育

- ポリグラフ検査官, 科学警察研究所法科学研修所 (2008)
- 犯罪者プロファイリング分析官, 科学警察研究所法科学研修所 (2010)

現職

- 専任講師, 明治学院大学心理学部心理学科 (2021-)
- 発起人, 犯罪者プロファイリング分析技術研究会 (2014-)

前職

- *Visiting Researcher*, University of Cambridge, the United Kingdom. (2017)
- *Visiting Researcher*, Åbo Akademi University, Finland. (2016-2017)
- 非常勤講師, 文京学院大学 (2015-2018)
- 心理係, 栃木県警察本部刑事部科学捜査研究所 (2008-2018)
- 大学院特任研究員, 法政大学大学院ライフスキル教育研究所 (2018-2021)
- *Postdoctoral Fellow of Psychology*, New York University Shanghai, Republic of China. (2018-2021)

教育歴 (学士レベル)

講義管理及び運営支援

- 司法・犯罪心理学, 明治学院大学心理学部 (2021-)
- 神経・生理心理学, 明治学院大学心理学部 (2021-)
- 心理学演習 1A/B, 明治学院大学心理学部 (2021-)
- 心理学入門 1/2, 明治学院大学教養教育センター (2021-)
- 心理学各論 1 (生理心理学), 明治学院大学教養教育センター (2021-)
- 心理学各論 2 (認知心理学), 明治学院大学教養教育センター (2021-)
- *Experimental Discovery Component of the Introduction to Psychology*. Arts & Sciences, New York University Shanghai (One of two modules of the course: Supervision of 8 groups of 5-6 students each, each conducting 2 experimental studies over the whole semester, course administrator and lecturer, 2019-)
- 司法・犯罪心理学, 文京学院大学人間学部 (2015-2018)

招待講演・その他

- Guest lecture on *Polygraph testing*. Arts & Sciences, New York University Shanghai (2018)
- ゲスト講義「犯罪心理学の応用」日本文化大学 (2013)
- ゲスト講義「犯罪心理学の応用」東京情報大学 (2013)
- ゲスト講義「犯罪心理学の応用」法政大学 (2010)

招待講演および基調講演

- 萩野谷俊平 日本応用心理学会企画公開シンポジウム「応用心理学の未来—実社会との連携活動を目指して」(話題提供)「犯罪心理学の視点から: Man vs. Machine 論争の先へ」(2015).

サイエンスコミュニケーション

- **Haginoya, S.** *Everybody Lies?* Invited lecture at Shanghai Science and Technology Museum (Shanghai, China on 16 Nov 2019).

学会大会セッション等

- 日本法科学技術学会第 20 回学術集会法心理セッション座長 (2014)

国際学会 (発表)

- **Haginoya, S., & Kuraishi, H.** *Comparing the accuracy of geographic profiling, by considering the number of crimes.* Poster presentation at the 71st Annual Meeting of the American Society of Criminology. (Washington DC on 19 Nov 2015)
- **Kuraishi, H., & Haginoya, S.** *The Development of a Japanese Geographic Profiling System in R Language.* Poster presentation at the 71st Annual Meeting of the American Society of Criminology. (Washington DC on 19 Nov 2015)
- **Haginoya, S.** *Predictable Classification of Serial Domestic Burglar in Japan* Poster presentation at the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe, Japan on 7 Aug 2011)

国内学会 (小講演・ミニシンポジウム等発表)

- **萩野谷俊平** 日本心理学会第 84 回大会公募シンポジウム「オンラインによる司法面接研修：課題と展望」(話題提供) (2020)
- **萩野谷俊平** 日本心理学会第 83 回大会チュートリアルワークショップ「アバターによる被虐待児童面接のシミュレーショントレーニング」(講演者) (2019)
- **萩野谷俊平** 日本心理学会第 83 回大会公募シンポジウム「児童虐待に立ち向かうために」(企画・話題提供) (2019)
- **萩野谷俊平** 日本心理学会第 79 回大会小講演「住居対象侵入窃盗事件の犯罪者プロファイリング研究」(2015)
- **萩野谷俊平** 日本心理学会第 77 回大会公募シンポジウム「犯罪者プロファイリングと心理学の接点」(話題提供) (2013)
- **萩野谷俊平** 日本心理学会第 76 回大会ワークショップ「犯罪者プロファイリングの最前線 (1)」(企画・司会・話題提供) (2012)

助成金 (総額 7,793,000 円)

- 4,300,000 円 - 公益財団法人 中山隼雄科学技術文化財団「シリアスゲーム『アバタートレーニング』による児童虐待面接訓練」(代表研究者; 2020-2021)
- 500,000 円 - 公益財団法人 明治安田こころの健康財団「日本語版面接者訓練強化ツール(EIT-JP)の効果検証」(代表研究者; 2018)
- 1,443,000 円 - 公益財団法人 電気通信普及財団「日本語版説得されやすさ尺度(StP-II-JP)を用いたネット詐欺被害者の心理特性の検討」(代表研究者; 2017)
- 1,000,000 円 - 法政大学優秀博士論文出版助成金 (代表研究者; 2015)
- 500,000 円 - 科学研究費補助金 (奨励研究)「住宅侵入盗の地理的プロファイリングにおける確率距離法の検討」(代表研究者; 2015)
- 50,000 円 - 犯罪心理学会研究助成 (代表研究者; 2013)

賞罰

- 日本応用心理学会学会賞 (奨励賞)「住居を対象とする侵入窃盗の事件リンク分析」(2015)
- 日本心理学会学術大会優秀発表賞「性的児童虐待面接シミュレーションとフィードバックによる面接技術の向上」(2019)

査読歴 (括弧内は完了数)

- 査読者 - 日本法科学技術学会誌 (1)
- 査読者 - 行動計量学 (1)

所属学会

- 会員:

日本心理学会
日本応用心理学会
日本犯罪心理学会
日本環境心理学会
日本法科学技術学会

研究業績リスト

インパクト解析(Harzing's Publish or Perish Statistics, accurate as of May 17, 2021):

論文: 14	被引用/年: 3.43	h-index: 3
被引用: 24	被引用/論文: 1.71	g-index: 4
被引用期間 (年) : 7	著者/論文: 3.29	hI,norm: 2

最多被引用論文: #12 (Haginoya, Psych Crim Law 2014: 10 回)

査読付論文

1. **Haginoya, S.**, Yamamoto, S., and Santtila, P. (ahead-of-print). Combination of feedback and modeling in online simulation training of child sexual abuse interviews improves interview quality of clinical psychologists. To be submitted to *Child Abuse & Neglect*.
2. **Haginoya, S.**, & Hanayama, A., & Koike, T. (ahead-of-print). Linkage analysis using geographical proximity: A test of the efficacy of distance measures. *Journal of Criminological Research, Policy and Practice*
3. 倉石宏樹・萩野谷俊平・小林一生・楠見孝 (2020). 日本版地理的プロファイリング支援ソフトウェアの開発ー被疑者拠点空間分析システム SAMONー
4. **Haginoya, S.**, Yamamoto, S., Pompedda, F., Naka M., Antfolk, J., & Santtila, P. (2020). Online simulation training of child sexual abuse interviews with feedback improves interview quality in university students. *Frontiers in Psychology*
5. 花山愛子・萩野谷俊平・倉石宏樹 (2019). 地理的プロファイリングにおける距離の測定方法の違いによる拠点推定精度の比較. 法科学技術学会誌. <https://doi.org/10.3408/jafst.755>
6. Hanayama, A., **Haginoya, S.**, Kuraishi, H., & Kobayashi, M. (2018). The usefulness of past crime data as an attractiveness index for residential burglars. *Journal of Investigative Psychology and Offender Profiling*, (March), 1–14. <https://doi.org/10.1002/jip.1507>
7. 萩野谷俊平・倉石宏樹・花山愛子・小林正和・細川豊治・杉本貴史 (2017). 地理的プロファイリングの精度比較. *心理学研究*, 88(2), 123-131. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.88.16011>
8. 蒲生晋介・萩野谷俊平・花山愛子・細谷隆太・菅美知子・石内彩美・真栄平亮太 (2017). 住宅侵入盗の犯行地選択における方向の一貫性. *日本法科学技術学会誌*, 22(2), 153 - 160. <https://doi.org/10.3408/jafst.721>
9. 萩野谷俊平 (2016). 地理的・時間的近接性による罪種横断的な事件リンク分析. *心理学研究*, 87(4), 343-353. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.87.15030>
10. 萩野谷俊平. (2016). 連続事件と単発事件における事件リンク分析の検討. *応用心理学研究*, 42(2), 1-9.
11. 菅美知子・萩野谷俊平・細川豊治・蒲生晋介・石内彩美 (2016). 地理的プロファイリングにおける拠点推定モデルの精度比較ー犯行地点数の影響の検討ー. *犯罪心理学研究*, 54(1), 41-51. https://doi.org/10.20754/jjcp.54.1_41
12. **Haginoya, S.** (2014). Offender demographics and geographical characteristics by offender means of transportation in serial residential burglaries. *Psychology, Crime & Law*, 20(6), 515–534. <https://doi.org/10.1080/1068316X.2013.793768>
13. 萩野谷俊平. (2014). 住居を対象とする侵入窃盗の事件リンク分析. *応用心理学研究*, 40(1), 45-53.
14. 萩野谷俊平・花山愛子・小野修一・蒲生晋介・真栄平亮太・細川豊治. (2014). 住居対象連続侵入窃盗事件における犯人属性の犯罪手口による予測. *日本法科学技術学会誌*, 19(1), 31-43.

準備中及び査読中の論文

1. **Haginoya, S., & Santtila, P.** (in preparation). The experimenter effect occurs to the untrained human judgment in the concealed information test. To be submitted to *Psychophysiology*.
2. 萩野谷俊平・山本渉太・サンティエーラペッカ (submitted). アバタートレーニングによる性的犯罪被害児童の面接訓練効果ーフィードバックを併用した検討 子どもの虐待とネグレクト

著書等

1. 萩野谷俊平 (in press) ロジスティック回帰分析を用いた事件リンク分析に関する研究 応用心理学ハンドブック編集委員会 (編) 応用心理学ハンドブック 福村出版
2. 萩野谷俊平 (in press) 地理的プロファイリング 羽生和紀・芝田征司・島田貴仁 (編著) よくわかる環境心理学 ミネルバ書房
3. 萩野谷俊平 (2018) 第 7 章 高齢者による窃盗 越智啓太 (編著) 高齢者の犯罪心理学 誠信書房
4. 萩野谷俊平 (2017) 第 6 章 犯罪捜査に関する環境心理学 太田 信夫 (監), 羽生 和紀 (編) 環境心理学: シリーズ心理学と仕事 17 北大路書房
5. 萩野谷俊平 (2016) 越智啓太 (著) 『ワードマップ 犯罪捜査の心理学: 凶悪犯の心理と行動に迫るプロファイリングの最先端』 (2015 年, 新曜社) 社会心理学研究, 32(2), 142-143.
6. 萩野谷俊平 (2016) 第 11 章 「窃盗」 越智啓太・桐生正幸 (編) テキスト 司法・犯罪心理学 北大路書房
7. 萩野谷俊平 (2016) 住宅侵入盗 日本犯罪心理学会 (編) 犯罪心理学事典 丸善出版
8. 萩野谷俊平 (2016) 犯罪者プロファイリング研究: 住居対象侵入窃盗事件の分析 北大路書房
9. 萩野谷俊平 (2011) 「NVC (ノンバーバルコミュニケーション) を用いた虚偽検出」「証言の信頼性査定 (CBCA)」「犯罪心理言語学」 越智啓太・藤田政博・渡邊和美 (編) (2011) 法と心理学の事典 朝倉書店